



教育長 田中 康寛

ようやく朝晩には涼しさを感じられるようになってきました。9月に入ってからコロナ感染児童生徒が増加していましたが、現在は、コロナ以上にインフルエンザの感染者が増え、学級閉鎖もあちこちで出ています。これから気温が下がり例年の流行期に近づくと、更に感染者が増えることも懸念されますので、引き続き、子どもたちの健康管理に配慮してまいります。

さて、今回は、教職員の職場風土の醸成について、働き方改革の視点から考えてみたいと思います。

急速に変化していく社会の中で、子どもの学びの質を高めたり、学校が日々直面している、複雑化・多様化した課題に対応したりするためには、「学び続ける教職員」と、「教職員が育つ学校」を目指すことが必要です。教職員の皆さんが学び続け、学んだことを共有し合い、組織としても成長していくということであり、教職員の学ぶ意欲や学ぶ時間を確保するためには、学校の働き方改革が最も重要であると認識しています。8月号でお知らせした給食室へのエアコン設置については、作業が終了し、9月以降、すべての学校の給食室において職場環境が改善された中で給食調理業務が行われており、熱中症の報告はありません。現場からは、エアコンがなかった時に比べて作業をしやすくなったとの声が寄せられています。教職員が少しでも働きやすくなり、力を発揮できるよう、引き続き職場環境の改善に努めてまいります。

学校は、さまざまな専門性を持った職員で構成されています。一番人数が多い職種は「教諭」ですが、専科の教諭や養護教諭、栄養教諭・栄養士、事務職員、学校司書、ライフカウンセラー、スクール・サポート・スタッフなど、1つの学校に配置されている職員が1人程度の職種もあります。多様な職種で構成されている学校は、課題解決に向けた方策を多角的な視点から考えることができる強みを持っています。学校では、職員それぞれの専門性を生かしながらチームで業務にあたることにより、複雑化・多様化した課題に的確に対応できるようになるため、こうした取組ができる組織風土の醸成に努めてまいります。

9月市議会定例会が終わりました。学校教育に関する様々な質問が出ました。学校教育への関心の高さがうかがえます。その中で、教育の情報化についての質問があり、ネットワーク環境や学習用端末整備、AIの活用等について答弁をしました。教育委員会では、現在、教育現場の課題や意見を取り入れ、新たな教育方法へ変革を促すICT環境の整備を目指し、検討を進めているところです。ご意見から、どのような機能を現場の教職員が必要としているかを見極め、より安全で使いやすい環境を整えてまいります。

今年度の折り返し地点となりました。各園・学校では、前期を振り返り、教職員の対話による、多角的な視点からの分析を進め、年度当初に掲げた教育目標が達成できるよう、取り組んでまいります。